

笑顔の肖像

#18



マツダ株式会社マツダ病院療法士長／
公益社団法人日本理学療法士協会
産業理学療法部門代表運営幹事
山崎重人さん

私

は約31年前に、理学療法士として働き始めました。理学療法士を目指したのは実は直感から。学生時代の私は、この職業を知りませんでした。現在は、マツダ(株)マツダ病院に勤務。総勢22名からなるリハビリテーション科の療法士長を務めています。当院に入社して直ぐの2002

年、関連学会で福祉車両に理学療法士が関わっていることを知り、「理学療法士の視点は、自動車開発などに役立つ」と考えるようになりました。しかし、当時、理学療法士は産業保健分野のメンバーではなかったため、自動車開発に参加することは叶いませんでした。

その後、2013年、私は(公社)日本理学療法士協会の産業理学療法部門の代表運営幹事を拝命。ここから、産業保健分野での活動を本格的に開始しました。私は、臨床現場でリハビリテーション治療をすることを主としています。2018年からは一歩

踏み込み、会社の工場へ出向いての作業姿勢の改善提案や従業員の体の自己管理方法の指導、また、会社における転倒予防プログラム作成への協同、自動車の乗り心地の追求チームへの参画、パーチャルリアリティのリハビリテーション治療へ活用の検討を行う機会も頂いております。さらに、院内の看護部、臨床検査科、歯科、看護助手への腰痛予防指導のリーダーも担わせていただいております。

リハビリテーションは、予防医学では三次予防に位置づけられています。私は理学療法士も近い将来、一次予防の領域において専門性を発揮できると思っています。ですから、その環境づくりに尽力したいと考えています。これにより、私たち理学療法士は、治療者という領域にとどまらず、国民の健康寿命延伸や定年延長制度の導入に際して、国民がいきいきと働く社会づくりに、広く貢献できると信じています。